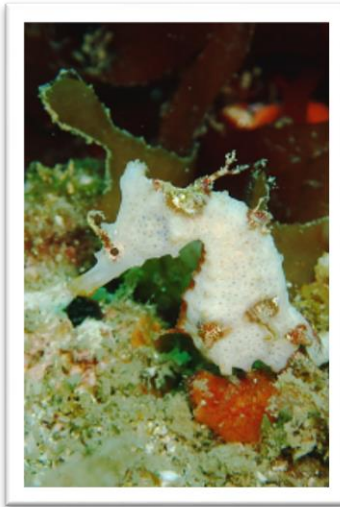


インタビュー

福岡の持続的発展につながる活動をしている方々にインタビューしてきました。

一般社団法人ふくおか FUN ダイバーの大神さんたちが設立し、ダイバーという強みを活かした活動を行っています。右の写真は、博多湾で撮影したタツノオトシゴの写真。驚くことに、他にもウニやアワビなども生息しているそうです。このように、博多湾の水中調査を行い、学校や公民館などで写真展示や講演を行い、我々が目にすることのできない福岡の海のありのままの姿を伝えてくれています。豊かである一方で、多くのごみも沈んでいるそうです。大神さんによれば、海の底の空き缶に魚が住んでいたりとるので、空き缶はごみでもあり、魚の棲み処でもあるとのこと。“ごみは悪”といった一面的な議論ではないことが印象的でした。また、「ひろい海の活動」と題して、スノーケルで海の中の生物観察を行った後、海岸清掃を行うイベントも行っています。初心者でもすぐにスノーケリングができるようになるそうです。



NPO 法人ハートマツシオン ニートやひきこもり、フリーターの方などの就労支援を若者から大人まで様々な年齢の方を対象に行っています。理事長の藤本さんたちは、元々、ハローワークの「若年者悩み相談」の

カウンセラーとして従事していましたが、この事業が終了したため、NPO 法人を設立し、支援を継続したそうです。このとき、ハローワークから引き続き支援した方々は、皆さん仕事に就くことができたそうです。現在は、春の山野草やブルーベリー摘み、ハーブの収穫などを通じて、ひきこもりの方々が社会復帰するきっかけづくりを行っています。特に、ブルーベリーはとても美味しくて大好評だそうです。一般の方も参加できますので、お問い合わせください。人口減少が進む中、ひきこもりなどの若年無就労者が一人でも多く、仕事に就くことは本人にとってはもちろん、社会にとっても重要な課題と思いました。内閣府によれば、ひきこもりは全国で約 70 万人と推計されています。

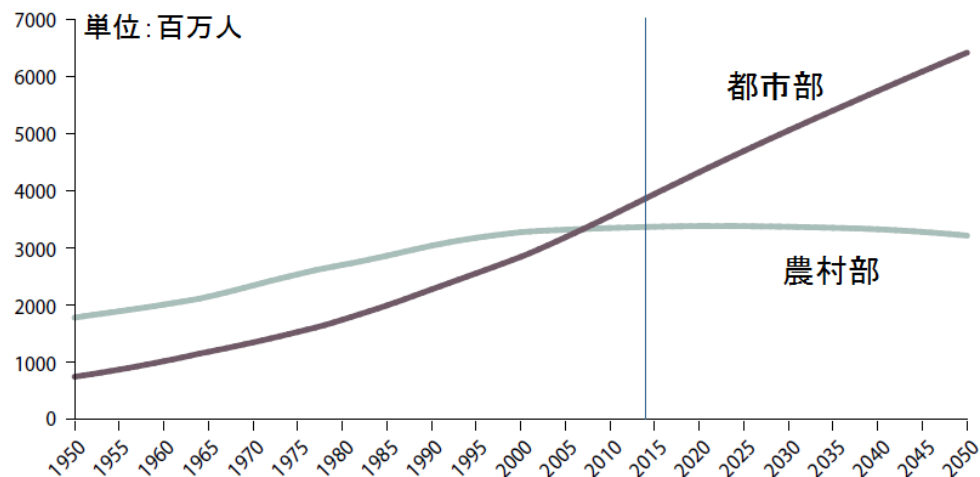
NPO 法人いるがわっと 小中学生を対象にした無料の学習会「マナビバ」を開催しています。代表理事の田口さんにお話を伺いました。週に 1 回、市営団地の近くの公民館で開催し、2 対 1 または 1 対 1 で学習指導を行っています。108 名のボランティアの協力を得て、年間延べ 1,000 人の子供の学びをサポートしています。学校の宿題や予習など、自分のやりたい勉強を自由にできる場所ですが、中 3 生は高校受験に向けた学習支援をしています。田口さんが自ら買い出しに行って、子どもたちに与えた参考書もあるそうです。だから、子どもが勉強してこなかったりすると、「ちゃんと勉強しなければならない」と本気で話すことができるということです。現在は西区と中央区の 2 か所（4 月現在 5 か所）ですが、今年度中に 17 か所を福岡市内に設置し、市内全域をカバーしたいと考えています。設置にかかる経費は、1 拠点当たり 60 万から 70 万円。皆さん、ご協力をお願いします。



ICLEI の都市アジェンダ：持続可能な都市に向けて

イクレイは、持続可能な社会を実現するために重要な課題として、次の10の分野を特定し、それぞれの分野で様々なプログラムを展開しています。1. 持続可能な都市、2. 低炭素都市、3. 資源効率性・生産性の高い都市、4. 回復力のある（強靱な）都市、5. 生物多様性の豊かな都市、6. スマートシティ、7. エコモバイル都市（持続可能な都市モビリティ）、8. 幸福、健全、包摂的な地域社会、9. 持続可能な地方経済と調達、10. 持続可能な広域自治体間連携。これらの課題は福岡市においても重要な課題です。例えば、徒歩、自転車、公共交通機関の利用を推進するエコモビリティ。福岡は、自転車で移動している人も多いので、エコモビリティの先進モデルを示すことが可能かもしれません。

世界の都市部と農村部の人口の推移



(出典：国連 World Urbanization Prospects, The 2014 Revision)

編集後記：お花見されましたか？取材を通じて、助ける側の方もストレスを感じていることを知りました。綺麗なお花を見て、飲んで食べて…たまには、弾けちゃいましょうよ！（内田）

【発行者】

特定非営利活動法人イマジン
福岡市早良区祖原 14-20
Tel 070-5818-6150
Email info@imagine.or.jp



サステナブルシティ福岡キャンペーン
<http://sustainablecityfukuoka.jp>

For You and For Me

第7号 2017年4月

ご挨拶

米国第45代大統領に地球温暖化を否定しているトランプ氏が就任しました。昨年11月にパリ協定が発効したばかりですが、世界の地球温暖化に関する政策はどうなるのでしょうか。明らかなことは、化石燃料に依存し続けることはできないということです。再生可能エネルギーの割合を高めていくことは、地球が温暖化しているか否かに関わらず、不可欠な人類共通の課題です。国際政治に左右されることなく、長期的な視点で地域独自に取り組んでいく必要があるように思います。

特定非営利活動法人イマジン 理事長 渡辺久也

ICLEI

特集：イクレイ(ICLEI)

イクレイは、持続可能な社会の実現を目指す1,500以上の自治体で構成された国際ネットワークです。世界的に都市部の人口は農村部に比べて増加しており、2014年現在、世界人口の54%が都市部に居住しています。2050年には66%まで増加すると予測されています。日本は既に人口の約8割が都市で生活しているため、日本の都市が持続可能性を高めることは世界に範を示すこととなります。イクレイに参加している日本の自治体は、愛知県、飯田市、板橋区、川崎市、北九州市、京都市、京都府、さいたま市、札幌市、墨田区、東京都、富山市、豊田市、名古屋市、広島市、武蔵野市、横浜市。残念ながら、福岡市はイクレイに参加していません。(裏表紙に続く。)